

ようこそ「人」に帰ろう・・・

ビオス北軽井沢へ

・・・おくつろぎのご案内・・・



F a r m e r ' s H o t e l

ビオス

キタカルイザワ

北軽井沢周辺の花と木

北軽井沢がある浅間高原は低山から亜高山帯の植物が分布しており、季節によってさまざまな花を楽しむことができます。さらに湯ノ丸山や高峰高原、志賀高原まで登るとコマクサやニッコウキスゲなど高山植物の宝庫となり、夏はお花畑が目を楽しませてくれます。特に60万株ともいわれる湯ノ丸山のレンゲツツジ(天然記念物)は見事のひとことです。また、別荘地でも春はフキノトウなどの山菜、秋はキノコ取りも楽しめます。

	花	木
亜高山帯	ヤナギラン・ワレモコウ・スズラン・アサマフウロ・キキョウ etc	ミズナラ・シラカバ・ハンノキ・ヤチダモトチ・から松 etc
高山帯	コイワカガミ・ヒメシャジ・クルマユリ・ハクサンチドリ・ユキワリソウ・ノアザミ・ニッコウキスゲ etc	コケモモ・ダケカンバ・シラタマノキ・シラビソ・ナナカマド etc



花のカレンダー -

春	5月	西洋タンポポ・アカネスミレ・フデリンドウ・ヒトリシズカ・イワカガミ・スズラン・ショウジョウバカマ・ゴゼンタチバナ etc
初夏	6月~7月	レンゲツツジ・アヤメ・ヤマルリソウ・ハクサンシャクナゲ・ノハナショウブ・シモツケ・アズマギク etc
夏	7月~8月	ニッコウキスゲ・オタカラコウ・ハンゴンソウ・ゴマナ・コオニユリ・ミズキボウシ・ユウスゲ・ヤナギラン etc
秋	8月~9月	マツムシソウ・ウメバチソウ・シラヤマギク・クルマアザミ・ナナカマド etc

北軽井沢のご案内

最近、いろいろな人と話していても「北軽井沢を知っている」とか「行ったことがある」という人が多くなり、うれしい限りです。でも大半の方は北軽井沢を長野県だと思われているのも現実です。

北軽井沢は大正時代に草軽鉄道が開通し、昭和初期には避暑地、観光地としてけっこう賑わっていたようです。今でも北軽井沢交差点の近くには、廃線となった草軽鉄道の駅舎が残っており、当時の様子をしのばせます。現在もホテル、旅館、ペンション、リゾートマンションなどがあり北軽井沢の中心地となっています。

1955年から4年間、浅間牧場周辺にオートバイの耐久レースのコースが造られ「浅間火山レース」がおこなわれ、たくさんの観客で賑わいました。このレースのメモリアルとして浅間園の中に浅間記念館があります。

北軽井沢は高原の広さと周囲の山並みのすばらしさからすると、その景観は軽井沢というより北海道に近い感じがします。

1. 北軽井沢はどのあたり

北軽井沢は正式には群馬県の長野原町の南部地域の地名です。北軽井沢の南側は軽井沢町ですので、文字通り北軽井沢となります。しかし、実際にはもっと広い範囲が北軽井沢と呼ばれています。

ではどこからどこまでが北軽井沢と呼ばれる地域なのかという明確な規定はありません。たぶん浅間山の北側にひろがる浅間高原の東側半分ぐらいだと思います。市町村でいうと長野原町の南部と嬬恋村の南東部のあたりということになります。



2. 北軽井沢の由来

もともと北軽井沢という地名ではありませんでした。名前の由来は大正時代、地蔵川という名前だった場所を大学村をつくった際に、「北軽井沢」という名前で呼んだのが始まりです。その後、これが広まり定着したため昭和61年に長野原町は南部地域の地名を北軽井沢に変更しました。

3. リゾートとしての歴史

軽井沢は江戸時代には中山道の宿場町として栄えましたが、明治となるとともに衰退しました。明治21年にイギリス人宣教師 A・C・ショウが別荘を建てたのが、現在のリゾートとしての歴史の始まりです。北軽井沢も昭和3年に法政大学の学長、松室致が法政大学の教授や関係者たちに土地を分譲したことが、リゾートとしての歴史の始まりとなりました。

北軽井沢には明治15年に北白川能久親王が軍馬育成牧場を開設しました。これが現在の浅間牧場です。そして大正6年7月に小瀬温泉から吾妻間の草軽鉄道が開通します。当初は駅は栗平にありましたが、翌年に地蔵川に駅が出来ます。その後、この駅が大学村の人達により新築、寄贈され北軽井沢駅となりました。ちょうどこの頃、北軽井沢と鬼押し出しとの間で乗合自動車の運行も開始されました。

昭和の初め北軽井沢の別荘地としての人気は高まり、岩波書店の創業者、岩波茂雄など多くの文化人たちが別荘を建てます。戦争中には、野上弥生子や劇作家の岸田国士が北軽井沢に疎開していました。特に野上弥生子は大学村の開村以来の住民で99才で亡くなる直前まで夏は北軽井沢で過ごされたそうです。

戦後となり、海外の引揚者や東京などからの疎開者の方などが、たいへんな苦勞の末、入植・開拓され、現在の牧場や高原野菜の畑などの風景を作り上げてきました。その後も避暑地としてのすぐれた環境から別荘は増え続け、このエリアだけで9000棟の別荘があると言われています。昭和35年には草軽鉄道が廃止されてしまいますが、モータリゼーションの発達とともに軽井沢や草津などともこの地域の重要な観光ルートとなりました。



4. 交通

北軽井沢に来るには長野新幹線や上信越道の開通により、軽井沢方面からの国道146号線や白糸ハイウェイを利用するコースの便がとてよくなりました。それ以外にも関越道渋川ICから吾妻川沿いに渓谷を眺めながら来るコースや倉淵村から二度上峠を越えるコースなどがあります。

鉄道は東京から軽井沢まで新幹線で約1時間。軽井沢から昔の草軽鉄道の跡をそうようにバスが走り、約40分で北軽井沢に到着します。渋川からの吾妻線を利用の場合、上野駅から直通の特急電車で長野原草津口駅で下車、駅からバスで約30分となります。

孀恋村

長野原町のお隣、高原キャベツで有名な孀恋村も東京駅前に大きな看板を作るなど観光の宣伝に力をいれています。

孀恋村というとキャベツなど農業の村のように思われますが、万座温泉や鹿沢温泉、浅間高原などたくさんの観光地があります。実は北軽井沢のシンボルである浅間山と鬼押出しは両方とも孀恋村にあります。それ以外にも軽井沢おもちゃの国、浅間ハイランドパークなどの施設や北軽井沢エリアの別荘の大半は孀恋村にあります。ですから北軽井沢と呼ばれている場所の半分は孀恋村であるわけです。

また、村内には万座スキー場や鹿沢ハイランドなどの6つのスキー場があり、近年の中高年の登山ブームにより浅間山周辺の山、四阿山、白根山への登山基地としても一年中、観光客が訪れています。

1. 孀恋村の場所

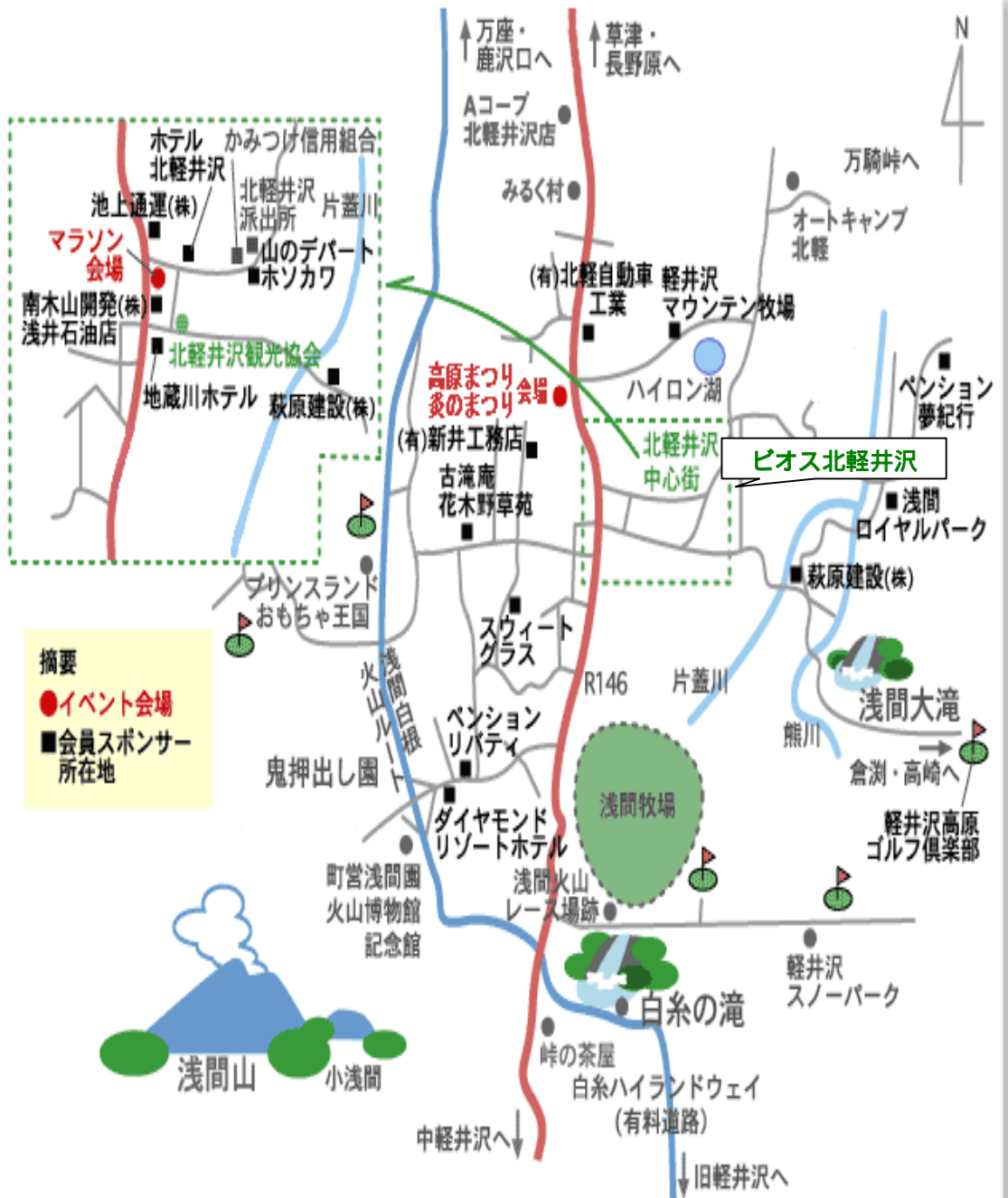
孀恋村は群馬県でも一番西(関東でも一番西です)にあり、地図でみるとあたかもここだけ長野県に食い込んでいるように見えます。実際も村の境界は北、西、南を長野県と接しています。



2. 高原の村

孀恋村は南を浅間山、北を白根山、西を四阿山に囲まれ、これらの山から広がる高原の上にあります。高原は浅間山北側の浅間高原、鹿沢高原、四阿山東側のバラキ高原、白根山南側の白根高原という3つ大きな高原があり、それぞれキャベツなどの畑、美しい山、川、湖、森などがあります。また孀恋村の西には菅平高原、北には志賀高原、そして南は高原の避暑地軽井沢というように一大高原地帯の真ん中あたります。

北軽井沢周辺マップ



周辺の観光案内

■浅間牧場 高原を満喫するには絶好なところ



北軽井沢の別荘地の中心街にほど近いところ、標高1,300mに広がる800haの県営牧場。6月下旬にはレンゲツツジが満開になり、約800頭の牛が放牧される。新鮮な空気を味わい、爽やかな高原の中を自由に散策出来るので、のどかな高原風景の中でんびり過ごしたい。しぼりたての新鮮な牛乳やソフトクリームの美味しさも高原気分を盛り上げてくれる。

昭和の初期に大ヒットした歌謡曲「丘を越えて」は、この浅間牧場がモデルになっている。また、日本初のカラー映画「カルメン故郷に帰る」のロケ地になったことでも知られている。

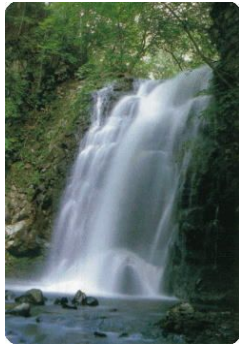
■鬼押し出し 火山活動が生んだ絶景美に触れる



天明3年(1783年)の浅間山大爆発によって噴出された長さ3km、幅3kmの溶岩の凝固地帯「鬼押し出し」、高山植物が咲き乱れ、溶岩を縫うように遊歩道が続いている。

浅間園の入口にあるのが浅間火山博物館、ハイテクを駆使して浅間山の噴火の歴史や周辺に生息する動植物の生態を紹介している。

■浅間大滝 浅間高原最大の滝



北軽井沢周辺で最大の滝と呼ばれる浅間大滝は、高原リゾートの涼しげなムードにぴったりの清らかな滝です。豊富に流れ落ちる水音も静寂な林に吸い込まれるようなしっとりとした風情があります。

■桜岩地蔵



六里ヶ原の道しるべ観音

六里ヶ原(浅間高原)は、浅間山の噴火によって草木も生えず冬は一面の銀世界という旅人にとっての難所でした。江戸時代、その窮状を見かねて地元の人たちが設置したのが道しるべ観音でした。かつてはこの地域一帯に百体ほどあったのですが、今では数十体に減り桜岩地蔵堂の参道に集められています。静かに並ぶ苔むした地蔵にかつての旅の苦勞がしのべられます。